

環境まちづくりをめざす

あじえんだ

秋

2000

第5号

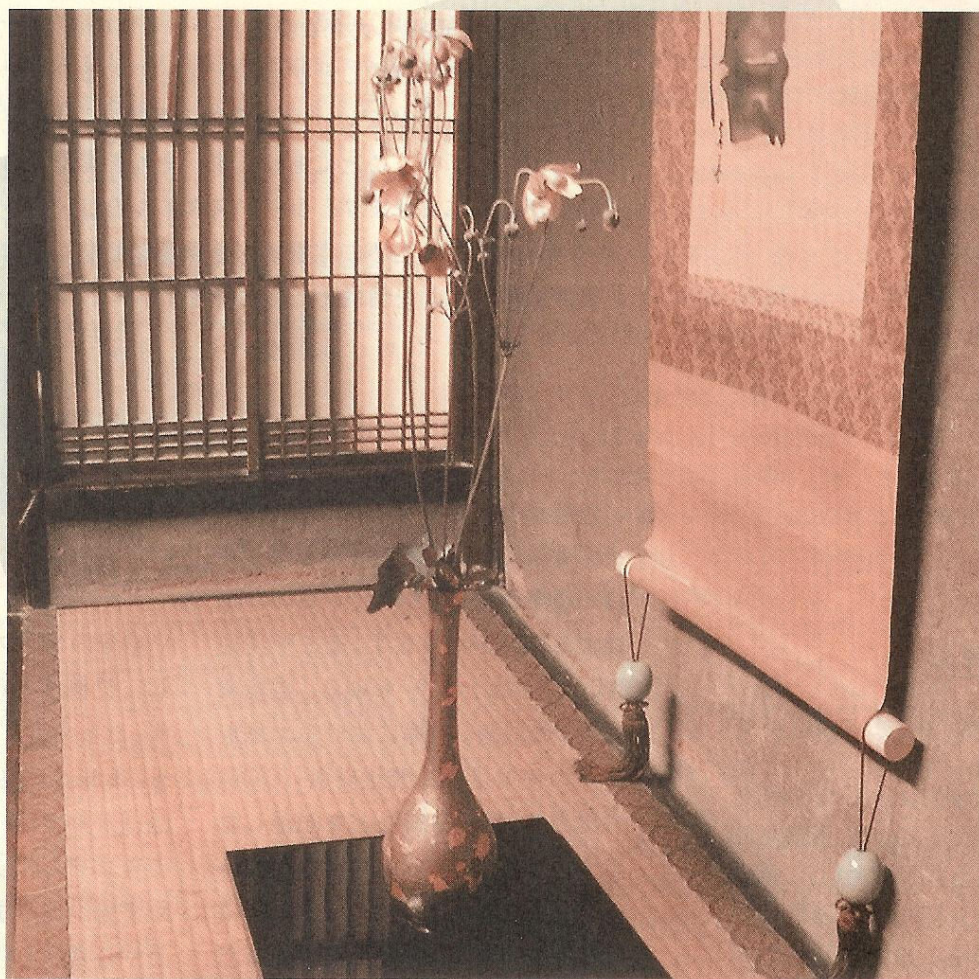
2000年10月15日発行

京 みやこ

のアジェンダ21フォーラム
ニュースレター

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。

「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて環境と共生できるまちの姿を描いていきます。



アジェンダを語る

みやこ

京のアジェンダ21 がめざす新しいライフスタイル

— 21世紀は環境がライフスタイルを決める

地域に広がるエコライフ 人々が取り組みやすい制度や仕組みを考える

アジェンダ見聞録

新潟県上越市

— ISO14001 認証取得と市民参加のまちづくり

あじえんだ NOW

都心のエコ交通プラン策定プロセスに参加を！

環境フォーラム京都 開催のお知らせ (12/2(土)アバンティホールにて)

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

鈴木 久美子さん

未来に残したい…
京の知恵

床の間の一輪

小さいからこそ、

ここはひとつ上等な

一輪挿しといきましょう。

名品は心を善くします。

心が決まると

暮らしが美しくなります。

写真 山口洋典

協力 上京区 藤本邸

*詳しくは5ページをご覧ください

アジェンダを語る

MIYAKO no Agenda21

21世紀は環境がライフスタイルを決める

新しいライフスタイル

京のアジェンダ21がめざす

田浦 健朗さん

岡山県倉敷市出身、京都市下京区在住。

COP3開催の1997年から気候フォーラムに参加。温暖化問題に関する専門家として、現在気候ネットワークの事務局長をつとめる。京のアジェンダ21フォーラム計画推進委員、ライフスタイルワーキンググループコーディネーター。



私たちの現在のライフスタイルはどのような経緯を経て形成されたのでしょうか。また、今後どのように変化していくのでしょうか。もともとライフスタイルは、風土や自然状況に適応してつくりあげられてきたものです。しかしながら時代が進むにつれ、政治形態・経済制度や技術革新、他地域や他国の文化や生活習慣が大きな影響を与えるようになりました。その結果、現在のライフスタイルは、利便性を増し、最新の情報が得やすくなった一方で、環境へ大きな負担をかけるものとなっています。そこで、ライフスタイルを見直すことが必要となってくるのです。

京のアジェンダ21フォーラム全体の目的は、社会を持続可能で豊かで公平なものにしていくことにあります。それを実現するためには、大きな方向転換が必要になります。ライフスタイルのワーキンググループは、転換すべき方向とそのために克服すべき課題などを、日常生活の視点から模索し実践に移すことを目的としています。

●環境家計簿・エコライフチェックの取り組み

エコライフを考えるにあたって、まずは私たちの日々の暮らしがどれほど環境へ負荷をかけているのか認識する必要があります。そこで注目されているのが、いわゆる「環境家計簿」の取組。家庭におけるエネルギーの使用量や二酸化炭素(CO₂)の排出量、環境負荷などを記録し認識することで、それらを減らしていくことを目的としたものです。単に電気やガス料金の数値を記入するだけでなく、標準レベルとの比較を行ったり、学習会を開いてエコライフに関する工夫や方法を学び、継続的に改善していくことを目指します。また「エコライフチェック」はチェックリストによって日常生活の点検を行うもので、ちょっとした工夫や配慮から環境への負荷を減らすことが可能です。

こうした取組は、環境負荷を減らすだけでなく、経済的メリットや健康的な生活につながる副次的効果も

あります。京のアジェンダ21フォーラムに参加されている地域の団体などからその周辺へと取組は広がっています。

●賢い消費者になる

自分のライフスタイルをチェックし、見直すだけでは限界があります。たとえばごみが多いと認識しても、トレイや包装紙につつまれた商品ばかりでは、ごみを減らすことはできません。しかし、そこであきらめず先へ進みましょう。現在、食料品や日用品を扱う店舗も、環境への意識から徐々にごみを減らす方向に向かっています。消費者が環境負荷の少ない商品や店舗を積極的に選択することが、自分の出すごみを減らすだけでなく、店舗の環境対策を進めることになるのです。消費者の選択が製造業や販売店に大きな影響を与えるのです。店頭で「包装用紙は要りません。ブックカバーも袋も不要です」と繰り返し伝えることも必要でしょう。環境負荷の少ない商品は特別なものでも高価なものでもな



▲(上、下とも)エコライフモニター・ワークショップのようす
(1999年10月 ウイングス京都にて)



▲環境まちづくり交流会 in 京都 第1分科会
「環境を考えた地域づくり～賢い暮らし、賢い買い～」のようす
(2000年6月 京都アスニーにて)

く、地球環境や健康によく、長期的、大局的にみれば経済的でもあります。

賢い消費者になるためには、正確な情報を持つ必要があります。現在の商品情報の多くは新製品や安売りの情報であり、環境に関する情報はわずかです。各商品に客観的な環境負荷度や汚染度が明記されることが望まれます。食料や日用品のみでなく、エネルギーや金融商品にも環境情報が不可欠です。各商品や店舗の環境負荷に関する正確な情報を幅広く提供することもライフスタイルワーキンググループで取り組む必要があると考えています。

●商店街と地域の取り組み

6月に行いました「環境まちづくり交流会in京都」の分科会では商店街の活性化の一環として環境へ取り組んでいる大映通り商店街（右京区）の事例を取り上げました。「商店街活性化のためにも環境の取り組みは欠かせない。その第一歩として、地域の廃食油の回収に取り組み始めた。まだ、成果をあげてはいないが、今後の環境への取組につなげたい」との報告がありました。分科会では魅力ある商店街について議論し「特色のある商店街が今後は活性化す

る」「商店街の専門性は強みである」など、様々な立場からの多様な発言が出ました。参加者の商店街や地域女性会が協力して環境問題に取り組み、地域単位の対話・交流をすすめることも、ワーキンググループの今年の活動目標になっています。

ワーキンググループでは、消費者と販売者の連携、地域組織や学校との連携を重視し、1つの商店街や学区などの小さい単位を、ライフスタイルの変革を広める対象と設定しています。いくつかのモデル地域が周辺につながり、さらに京都市全体に広がっていくことを期待しています。

●エコライフの実践が得をする制度

環境をまもるライフスタイルが多くの人に定着するには、エコライフを実践している人々が得をする制度を整えることも重要です。例えば、家庭における大きな環境負荷の1つに自家用車の使用によるガソリン・軽油の消費があります。徒歩や自転車、あるいは公共交通を利用したくても、自家用車と比べて圧倒的に不便であれば、どうしても自家用車の利用を選択してしまいます。これは環境負荷のコストが反映されてい

いたためですが、環境負荷の小さい移動手段を選択することで得をする制度があれば、必然的に人々の選択は変化するでしょう。

ワーキンググループでは、エコライフを実践している人々が得をする制度、またエコライフの実践を支援する店舗が得をする制度を検討しています。その1つとしてエコライフの認証制度があります。制度化に向けた実験として、今年度の京都市エコライフモニターにまず3ヶ月の調査に取り組んでいただきます。そして①エコライフチェックの取り組み②前年度よりも環境負荷を減らす③標準家庭よりも少ない、の3点を総合して、一定の基準以上の人には、エコライフ賞を出すことになりました。家庭の光熱費の節約になるだけでなく、取組が評価されることは人々の動機付けになるかもしれません。これはささやかな一歩ですが、地域の持続可能性や循環型社会への構築につながることを願っています。

21世紀は環境要因や制約がライフスタイルを決定する時代になるでしょう。今こそ、そうしたライフスタイルに適応するための準備に取り組むべきです。

新潟県上越市

ISO14001 認証取得と市民参加のまちづくり

全国の市町村の中で2番目にISOを取得し、環境先進都市としても有名な新潟県上越市。今回は、上越市・地球環境政策課副課長の猪俣光一さんに、「上越市役所ISO14001 認証取得と環境マネジメントシステム」について伺いました。

Q. 環境まちづくりに取り組むに至った経緯は？

上越市では、平成元年に水道水源の上流部でのゴルフ場開発に対して、市民約8万人の反対署名により、計画が白紙撤回されました。このようなことが契機となり、市民の間で環境問題に対する関心が高まってきました。こうした中、宮越馨市長は就任早々から環境を中心にしたまちづくりを積極的に進めてきました。30年後の未来を見据えたまちづくり構想「のびやか」プランは市民147人とともに話し合い、市民の意見を盛り込みながら2年かけて作成しました。その施策によって、緑の生活快適都市を作ること、緑を中心としたまちづくりを進めることが決まりました。

Q. ISOの認証を取得されたそうですが。

将来のまちづくりのあり方を模索しながら、行政の刷新を図ろうという目的で、平成9年4月にISOを取得する

ことを宣言しました。年度内取得ということで、職員も非常にびっくりして、1年でできるのかという不安の中で始まりました。ISOの意味も知らないところから始まり、8人で庁内横断のプロジェクトチームを作り、勉強をしながら進めていきました。各事務事業の環境影響を評価し、環境に関して点数づけをして、上位のものを目的目標にする作業をしました。これには市民5名にもオブザーバーとして参加いただいて、多くの提案を受けました。事務事業ごとの環境目標プログラムで数値化できるものはすべて数値化し、環境配慮マニュアルも策定し、その責任者も明らかにしています。

Q. 認証を取得されてどうですか？

認証取得を宣言した平成9年度末にISOの認証を取得し、初めは喜んでいたのですが、取った後の方が大変だと実感しています。なかなか思ったように、目的目標どおりにいかないのですね。役所の中でも若干戸惑いもありましたが、目標を掲げた以上はやろうとみんなで努力しています。現在は10名の方が市民オブザーバーとして毎年2回集まり、環境目的の結果や次年度における目標の数値等について話し合っています。内部環境監査チームメンバーは46名で、毎年の定期審査においてシステムの点検を行っています。

Q. 市民参加についてもお考えですか？

行政は汗をかいて市民の見本となるということでISOを取得しましたので、できれば市民や事業者の皆さんにもISOを取得してもらいたいという愿望があります。今年150人くらいで市民会議の立ち上げをし、市民として何ができるのか、環境マネジメントのPDCA*のサイクルを使ってどういった管理ができるのかを考えることにしています。市民の中には「温暖化で雪が降らなくなると、雪下ろししなくていいじゃない」という方もいて、将来のことをよく説明しないと、なぜ大変

な問題であるかが理解してもらえませんが、各個人や町内会にも負担がかかりますが、環境の考え方を説明して理解を得ながら、コンセンサス（合意形成）を図っていくことが大切であると思っています。行政の役割は、自発的に行動する市民の活動が芽生えてくるような動きを作ることではないかと思います。

Q. 今後の展望は？

地方分権の時代に入り、上越市ではグリーン税（環境税）を導入して、環境に配慮している人や企業の差別化をしようという構想があります。例えば、市民税・固定資産税などを軽減する制度などができないかを市のシンクタンクで研究しています。環境税を実行するためには、一人ひとりの理解を高め価値観もある程度同じレベルにすることが必要で、それにはまだ数年はかかると思っています。いろんな施策を行っている背景には、ある程度価値観の違う人たちに理解できるようなものを投げかけながら、市民の皆さんに徐々に気づいてもらい、市民版ISOに収斂していくことが理想です。人間が壊した自然は人間が責任を持って修復していかないといけません。これは行政だけではなく市民も共に取り組むことが大切であると思います。

上越市は市長を始めとする行政側の強いイニシアティブによって、環境問題をキーワードにした様々なまちづくりの施策を行っています。今後、真の意味でのパートナーシップを実現していく上で、どれ程多くの市民の理解を得て、共に行動していけるかが課題ではないでしょうか。

（この記事は、6月に開催された「環境まちづくり交流会in京都」において猪俣氏よりご報告いただいたものをもとに作成いたしました）

（取材・構成：松田直子）

※計画（Plan）→実行（Do）→点検（Check）→見直し（Action）というPDCAサイクルを繰り返し、継続的・恒常的に環境負荷の低減を実現していくシステム。



上越市役所の外観

Q 「量り売りが環境にやさしい」と聞いて関心があるのですが、どういう点でメリットがあるのか、どこで行われているのかを教えてください。(北区 S)

A 私たちがお店で買っている商品は、買いすぎて残ったものがごみになってしまったり、容器がごみになる場合があります。量り売りで買うと、自分が必要なだけ買うことができますし、容器持ち込みで購入すれば容器がごみにはなりません。京都市内にある店舗でも、ごみを減らすために量り売りをしている店が多くなってきていますが、そのいくつかをここでご紹介したいと思います。

まず、京都生協の各店舗では、ミネラルウォーターの量り売りをしていますし、ジャスコなどのスーパーでは、野菜の量り売りや詰め替え商品の積極的な販売が始まっています。また、京都駅前のプラッツ近鉄内にある「無印良品」では、コーンフレークやパスタ、コーヒー豆などの量り売りをしています。その他、化粧品やお酒の容器を持参すると中身を詰め替えてくれるお店も少しずつ増えているようです。こうしたお店にマイバッグを持

参して行けば、買い物によるごみがゼロになりますね。

こうしたお店の取組は、私たちのライフスタイルを環境にやさしいものに変えていくうえで大きな力になります。皆さんがご存じの「量り売り」のお店がありましたら当フォーラムにご紹介ください。前向きに取り組むお店の方々に応援しましょう。

(ニュースレター編集チーム)

▼京都生協におけるミネラルウォーターの量り売り
(コープ衣笠にて)



▼無印良品が行っているコーヒーやコーンフレークの量り売りの様子



未来に残したい… 京の知恵

其の五、 床の間の一輪

京町家のお座敷を訪問すると、誰でも一様に「広いナ」と感じるらしい。でも、もともと町中である以上二十畳も三十畳もある訳はなし、「アッ、ソウダ、何もないからなのだ」と気がつく。

たまに文机や座卓があってもかなり小作り控えめで、それでいて淋しくも頼りなくもなく、むしろどこからか華やかな気配すら漂って来るではありませんか。

それは京数寄屋に特有な簡潔で広々した床の間の一隅に、さりげなく置かれた花器に庭のものとおぼしき花一輪。これこそ京都流インテリアデコレーションの神髄、「床の間の一輪」スーパーテクなのです。あれこれ小物なしで、たったひとつのインテリアグッズに全てをたくし、あとは知らん顔の小気味良さ。

少ないほどキレイのこの技は、手間も少なく、掃除も楽で、なおかつ、お金もかからない、といたいところだがここが要注意、百円ショップの花瓶ではこうはいかない。小さいからこそ、ここはひとつ上等な一輪挿しといきましょう。名品は心を善くします。心が決まると暮らしが美しくなります。本当にいるものこそ出来るだけいいものを、の暮らしの姿勢が資源を減らさずにゴミを減らします。

恩地惇

(会員、環境デザイナー)

GK京都取締役社長)

写真 山口洋典

協力 上京区 藤本邸



企業活動ワーキンググループ

(津村 昭夫)

京都・環境マネジメントシステム・スタンダード (KES) は、規格 (案) に基づき、いよいよ具体的に試運転を開始しました。環境問題に取り組み始めた段階を想定した Step1 と、将来 ISO14001 の認証取得を目標に取り組む Step2。それぞれが、下記各企業のご協力により試行に入っています。

【Step1 参加企業】二和電気(株)、(株)新岩村電機製作所、ジーエス・ハイアン・ライティング(株)

【Step2 参加企業】(株)リーガロイヤルホテル京都、(株)京都コクヨ、旭銘板(株)、信栄電機(株)

KES 認証準備グループは、これらの経過と結果を整理しながら、規格の最終仕上げへ全力を傾注しています。

京都・環境マネジメントシステム・スタンダード (KES) とは企業等の組織や活動における、京都独自の「環境にやさしい基準」として考えられた。KESに継続して取り組むことがISO14001の認証取得へもつながる等、京都の環境にやさしい企業を応援するための仕組みづくりを目指す。現在、KES認証準備グループがボランティアベースで立ち上げられている。(詳しくは季刊「あじえんだ」第4号をご覧ください。)

エコツーリズムワーキンググループ

(十倉 真未子)

現在以下の3つを中心として活動しています。

●エコツーリズム月例セミナー

今年6月より、毎月1回、講師を囲んでセミナーを開催しています。京都におけるエコツーリズムへの認識を深め、また、幅広い方々にエコツーリズムについて理解していただく目的で始まったこのセミナー、すでに4回を好評のうちに終えています。

●観光施設エコ化プロジェクト

今年9月、昨年度の「エコロジーチェックチーム」を再結成する形で「観光施設エコ化プロジェクト」を立ち上げました。観光と環境の共生をめざし、具体的かつ効果的な方策をともに考え取り組んでゆくプロジェクトです。具体的には、観光施設への「KES」の取得推奨などを考えています。

●京都エコツーリズム実践交流プロジェクト

<歩くこと>を基本にした京都観光プランは、すでに多くの個人・団体によってアプローチされ、実践されています。こうした実践を掘り起こし、ネットワークしていきたいと考えています。

エコツーリズムワーキンググループでは、活動メンバーを募集しています。少しでも興味をお持ちの方は、フォーラム事務局までご連絡ください。また、セミナーや各プロジェクトのミーティングの開催情報も、フォーラム事務局までお問い合わせください。

エコミュージアムワーキンググループ

(竹花 由紀子/事務局アシスタント)

今年4月より計6回のセミナーや実地見学会を開催し、日本各地のエコミュージアムへの取組を見聞してきました。そして、7月7日～9日には、岩手県東和町で開催された「日本エコミュージアム研究会第6回大会in東和」に多くのメンバーが参加しました。

東和町は、1990年の「ふるさと創生事業」を契機にく住民版シンクタンクである「空・山・川総合研究所」を創設。この研究所を中心に、町内の歴史・文化遺産とくひと資源を生かした「イーハトーブ・エコミュージアム」づくりを積極的にすすめています。

大会では、そうした町内のエコミュージアム資源を体感するツアーが用意されました。地域の人々が私たち訪問者に対して手づくりで温かくもてなしていたことが印象的なツアーであり、エコミュージアムにおいてくひとの果たす役割の重要性を実感しました。

東和町をはじめ、全国にはエコミュージアムづくりに取り組むさまざまな自治体・地域があります。今後、当ワーキンググループで実地見学を行ってきた「大阪市平野区」「京都府美山町」などの取組を皆さんに紹介していきたいと思います。

交通ワーキンググループ ～都心のエコ交通プラン策定プロセスに参加を！～

(能村 聡)

京のアジェンダ21フォーラム・環境にやさしい交通体系の創出ワーキンググループ (略称、交通ワーキンググループ) は、都心を対象とするエコ交通プランづくりを進めています。当面は、現行の100円循環バスの走行している街路で囲まれた街区を想定し、すべての人々が安心して集い暮らせる、にぎわいと安らぎのある21世紀の京都の都心の将来像を描いていきます。

<プラン策定の進め方>

プランを具体化する『ビジョン部会』と、『キャンペーン部会』を設置します。『ビジョン部会』には、「自転車」「公共交通」「物流」「まちづくり」「視覚化」の5つのチームを設けて具体的なプランを考えていき、『キャンペーン部会』でそれを広く市民に働きかけていこうと考えています。

●『ビジョン部会』各チームのメンバーを募集中！

『ビジョン部会』の5つのチームでは、今後中心となってプランづくりを進めていくメンバーを募集しています。

●『キャンペーン部会』都心のエコ交通キャンペーン第1弾 参加希望者募集中！

本年度の100円循環バスの交通社会実験を支援し、市民が都心の交通を考えるきっかけを提供するため、京のアジェンダ21フォーラムではキャンペーンを実施します。この企画への参加者を募集中！ 【いずれもお問合せはフォーラム事務局まで】



大学コンソーシアム京都単位互換科目

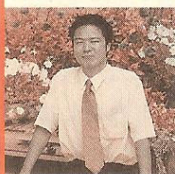
「京都学生・青年環境アクション21プロジェクト演習」 公开发表会 閉会！

9月12日から20日に渡り、大学コンソーシアム京都単位互換科目として「京都学生・青年環境アクション21プロジェクト演習」が開講され、9月20日には、新しく京都駅前にオープンした「大学のまち交流センター（愛称：キャンパスプラザ京都）」で公开发表会が行われました。

公开发表会では、「エコショップ町家」「ちゃLink！（自転車イベント）」「Go! me ☆（ごみ箱について考えるプロジェクト）」「エコー仮面（環境キャラクター）」など、京都市内の9大学から集まった55名の学生たちが、数々の楽しいアイディアを提案しました。今後、フォーラムとして、こうした学生パワーが生かせる場をともに探っていきたいと思います。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/action21>
（当フォーラムのホームページからリンクしています）

インターン生 自己紹介 関口和樹さん



はじめまして。この夏休み、大学コンソーシアム京都主催のインターンシップで京都市環境局地球環境政策課にお世話になりました立命館大学政策科学部の関口和樹と申します。

6週間に渡るインターンシップ中から、このフォーラムにはお世話になり、さまざまないい体験をさせていただきました。ここでは、行政と市民が一体となり一つの目標に向かってがんばるく「パートナーシップ」がしっかりとできていることに非常に感銘を受けました。また、僕の専攻が環境政策であることから、自分の専門分野の知識を深めるのにも非常によい機会となりました。

インターン終了後も、フォーラムのアシスタントとしてお世話になりますのでどうぞお見知り置きを。よろしくお願いいたします。

京のアジェンダ21フォーラムの100円循環バスへの対応

10月1日から100円循環バスの交通社会実験が始まりました。

7月30日に開催したワークショップ「集まれ！100円循環バス市民応援団」では、まず魅力のあるバス車両を導入しようという意見が出されました。そして、ここでの意見を「100円循環バスを改善する市民アイデア集」として、社会実験の実施主体である「都心の交通対策研究会」に提案しました。これにより次の本格的な社会実験も可能となります。

この社会実験は、市民完全参加のイベントという形で、「自家用車に代わる公共交通の楽しさの発見」「自転車の立場の確保」「商業の集積する都心での新しい商品物流手法づくり」、そして何よりも「歩くことのゆたかさ」の確立をめざします。100円循環バスを市民参加によって確立することは、京都都心において「新新かつ京都らしい」交通体系づくりを実現する最初の入口です。フォーラムとしても、このバスを、都心の公共交通の重要な役者として大切に育てていきましょう。

おさそい／ごあんない
INFORMATION

COP6、迫る。

❁ COP6で京都議定書の行方が決まる

京のアジェンダ21フォーラムの設立とも関係の深い地球温暖化防止京都会議（COP3）で「京都議定書」が採択され、先進国全体で温室効果ガス5.2%の削減が合意されましたが、いくつかの項目の詳細は先送りされました。これらの詳細を決定するために、11月13日からオランダのハーグでCOP6が開催されます。COP6で集中的に議論されるのは①森林などの二酸化炭素吸収の扱い方、②外国での削減や削減分を売買する仕組みのルール、③途上国への具体的な支援、④目標を守らせるための措置、守らなかったときの措置、などです。これらの議論の結果次第で京都議定書が温暖化を防止するために役に立つものとして発効されるかどうかが決まります。ところが、日本や米国はできるだけ「抜け穴」を大きくし、自国の削減を少なくする方向で交渉を進めようとしています。COP6を成功させ、抜け穴のない京都議定書発効の道筋をつけるためにも、京都の人々の声をCOP6に届ける必要があります。（気候ネットワーク 田浦健朗）

*COP6に向けての論点は、気候ネットワーク作成のパンフレット「全てはこれから」をご参照下さい。お問い合わせ・パンフレットのご請求は、気候ネットワークまで。

□ 〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305

□ TEL 075-254-1011 / FAX 075-254-1012

□ E-mail kikonet@jca.apc.org

❁ 12月に「環境フォーラムきょうと」開催

地球温暖化防止月間の12月、ごみ減量、廃棄物適正処理、省エネ・省資源など、環境問題についてもっと関心を持ってもらうきっかけとなるよう、「環境フォーラムきょうと～みんな考えてみよう京都の産業廃棄物問題と地球温暖化防止の取組～」を開催します。特に第2部の「青空のピコ」は、産業廃棄物施設の建設をめぐる展開される業者と地元住民たちとの葛藤をえがく啓発劇です。ぜひご参加ください。（詳細は京のアジェンダ21フォーラム事務局通信 月刊『あじえんだ』11月号に掲載予定）

◇ 日時：12月2日（土） 午後1時～5時

◇ 場所：アバンティホール

◇ 内容：第1部 地球温暖化防止等活動表彰

第2部 啓発劇「青空のピコ」（出演：劇団往来）

◇ 定員：350名（申込多数の場合抽選）

◇ 参加費：無料

◇ 申込方法：11月1日（水）～15日（水）の間に、住所・氏名・電話・FAX番号を明記のうえ、はがき又はFAXで京都市産業廃棄物指導課まで

（TEL (075) 213-0926 FAX (075) 221-6550）

ひと
まち
きたる

鈴木 久美子 さん

待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。



インタビューを終えて
(撮影 千葉有紀子)

愛知県名古屋市出身。立命館大学政策科学部に在学中の三回生。同学部内の環境自主ゼミメンバーから生まれた環境サークル「スーニャ」に所属。つい最近まで代表をつとめていた。

——「ひとまちきたる」初の現役大学生登場です。
大学では何を研究されてるのですか？

ゼミでは2回生でペットボトルのリサイクル、3回生の今はドイツと日本のごみ政策比較を勉強しています。もともと環境先進国としてドイツには興味がありました。実は今度、地元の名古屋の市民派遣でドイツに視察に行くことが決まっているんです。

——ぜひフォーラムで報告していただきたいですね。
ところで環境サークル「スーニャ」ってどんなサークルですか？

研究も環境、サークルも環境で、「環境バカ」って呼ばれています。「スーニャ」は、「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域で行動する）」を理念にしており、私はこの言葉にひかれて入りました。いい言葉ですよ。誰が言い出したのでしょうか。

——それは私も知らないけど、同感です。

「スーニャ」はプロジェクト制で、いくつかの活動が同時に動きます。大学内のごみの問題に取り組んだり、能勢の棚田を借りて田植えをしたり、里山のことを考えたり…。「理論より行動」「まず動け」というサークルですね。つい最近まで代表をつとめていたので、多いときには週3～4回のミーティングに出席しなければならず大変でした。今、少しのんびりしてるんです。

——印象に残っていることは？

やはり学園祭のごみ削減と分別の活動ですね。みんなの理解を得ることの難しさを痛感しました。学園祭の出店から出る容器ごみを削減するために、プラスチック製のお皿を貸し出して、何度も洗って使ってもらう「洗い皿運動」を実施したのですが、400～500ある出店のうち協力してくれたのは8店舗だけでした。また、お客さんが間違えて捨てたのか、終わったあとにはお皿の数が減っていました。

ごみの分別もなかなか協力してもらえなくて、「割りばし」「トレイ」「資源ごみ」「その他」と分けて入れるようにしてるのに、いっしょくたになってるんです。「情けないなあ」と思いながら分別しなおしました。この分別回収した9000枚近くのトレイも学園祭中ずっと洗っていたんですが、これが大変でした。

大学内の生協に「ペットボトルの種類を減らしてください」とお願いに行ったこともあります。それが実現して4種類に減ったときは「やったあ」と思いました。でも、逆に利用者の声に押されて元に戻ってしまっただけです。行きつ戻りつですね。でも、小さいことからコツコツやっていけばいいと思っています。

——京のアジェンダ21フォーラムに何を期待しますか？

市民活動のリーダー的役割、先進的役割、火付け役ですね。フォーラムの取組が、隣の人や地域の人に広がっていいと思います。

——どうもありがとうございました。

(聞き手 千葉有紀子)

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振入をご利用ください。

◇郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

◇銀行振込口座：三和銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2000年秋(第5号)

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都府環境局環境企画部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：佐藤桂子・竹花由紀子・千葉有紀子・松田直子・水口保

デザイン・レイアウト：藤本芳一・山口洋典

※このニュースレターは古紙100%の再生紙に大豆油インクを使用しています。